

## 天声人語

漫画『進撃の巨人』を初めて読んだ時のざわつとした感じを覚えている。高い壁に守られ、かろうじて平和な暮らしを営む街がある。しかし壁の外へ一步出れば、人間を食らう巨人がうようよい荒野なのだ▼その壁もやがて破られ、人びとは襲い来る巨人たちとの戦いを決意する。これはまさしく香港のことだ。そう思った若者たちが多くたのだろう。2014年、中国にのみ込まれるのを危惧し、民主化を求めた「雨傘運動」のさなか、漫画が読まれ引き合いに出された▼催涙弾よけの雨傘をシンボルに、大通りを占拠した運動である。それから約5年、雨傘運動の再来といわれ大規模なデモが香港で起きている。いま人びとが怒っているのは、刑事事件の容疑者を中国本土に引き渡すことができない大規模なデモが香港で起きている。まるで懸念されているのは、刑事事件の市民でも、中国当局に拉まれた者が別件で逮捕され、本土の裁判所に送られるイメージか▼「一国二制度」のもと、香港には表現の自由があり、政治から独立した司法がある。そんな壁の一角が崩されようとしている。壁は、中国当局からすればたんなる障害物であろう。しかし本当は、中国の独裁体制のおかしさを映し出す鏡でもあるはずだ▼デモのうねりは政府を動かしつつある。香港の行政長官はきのう、条例改正案の審議を延期すると発表した。しかし人びとが求めているのは、あくまで撤回である。

2019・6・16